




B - Pラストメッセージを読んで


ウルフ班




 私は金持ちになっても、社会的に成功しても、わがままができて、それによって幸福にはならないとそう思っていたし、幸福に一步近づける道は人の役に立つことだけでなく、体を丈夫に強くすることも幸福になれる第一歩だと言うことははじめて知った。だからこれからは体を丈夫に強くしようと思った。しかし、本当の幸福を得られるには、他の人を幸福にする事にあった。この世の中を受け継いだり、少しでも良くする努力をしたのなら、死ぬときが来ても、とにかく自分は一生をムダにしないで、最善を尽くしたのだという満足感で幸福に死ぬ事が出来る。この文章を読んでいつでもつねに備え、いつもスカウトのちかいを守りおとなになっても忘れないで一生を過したいと思う。(O)

 私はB - Pが言ったように「金持ちになっても、社会的に成功してもわがままができて、それによって幸せにはならない。」だから私は大人になって他の人のためにいろんなことをやって、自分もそうだけ一番大切なのは他の人たちを幸福にすることだと私は思った。また、大人になるまでにボーイスカウトの「そなえよ、つねに」と「日々の善行」を守りながら体を強くしていきたいと今の私は思っています。そして、いつかは自分で判断して今、自分がやることは何か？他の人々の幸福は何かを考えて行動に移していきたいと思います。(S)

 B - Pのラストメッセージを読んで一番心に残った言葉がある。それは「少年のうちに健康で強い体を作っておくことである。」だ。なぜなら僕もこの考えに共感できたからだ。小さいときにキャンプなどでつらい体験をし、体や心が鍛えられ、強くなる。そうすることによってその際に仲間を思いやり、協力することでB - Pが言っている「幸福を得る本当の道は他の人に幸福を分け与える。」ということに結びつくと思う。このことを通して世の中の人役に立つ人になるためには、幸福な一生を送るためには、やはり小さい時から丈夫な人間になる必要があるとわかった。両親にもこういう考えで僕をボーイスカウトに入れたのだと思う。この期待に応えられるよう日々の活動をがんばりたい。(N)

 ラストメッセージを見て、最後に体を強くしたら役に立つのはそうなんだと思いました。いくらお金を持っていても体が強くなければどうにもならないからだと思いました。そしてラストメッセージは僕たちが大人になってもボーイスカウトでやったことを忘れてはいけないということをベーデンパウエルは伝えたいんだなと思いました。だからラストメッセージの最後の方に「幸福に人生を送り、幸福に死ぬためにこの考えで常に備え、いつもスカウトのちかいを守り、大人になってもそれを忘れないことだ。」と書いていました。だから僕が大人になってもそのことは忘れたらだめだなと思いました。最後に、「どうぞ君たちにそれができるように、神よお守り下さい。」という言葉は僕達の幸せをねがっているんだなあとと思いました。(T)

 僕が一番印象に残った所は、「私は非常に幸福な人生を送った。君たちみんなも同じような生涯を送ってもらいたい」というところです。なぜかと言うと、その言葉がB - Pの一番の願いだと感じたからです。B - Pが知らないスカウトに留まらず、世界中の少年達へのメッセージだと思いました。僕にもこの同じメッセージを受けて、すごくうれしくて、勇気付けられて、応援してもらっている気分でした。僕もできるだけ他の人を手助けしたいです。今の僕は大きなことはできないけれど、大人になったら人の役に立つ仕事をしたいです。(H)